

みなさんからの素敵な  
情報を待ってます！

## 地域住民のために役立てて

寿山集会所建設費用の一部を寄付



▲川井市長に目録を手渡す  
齋藤英一さん（中央）と高橋丈夫さん（右側）

地域住民の利便性向上のため、老朽化して使用しにくくなった寿山集会所の改築をと、6月28日、同地区にお住まいの齋藤英一さんから500万円、そして同地区有志の皆さん（代表：高橋丈夫さん）から50万円を、集会所改築費用の一部として市に寄付していただきました。

市では、この寄付を受け、補正予算に集会所改築のための予算を計上し、改築を進める予定です。

## 気軽に英会話を楽しみました

### EIGOで話そうin壽丸屋敷Part7

中町の壽丸屋敷で、気軽に英会話や国際交流を楽しもうと、6月22日、7回目となる「EIGOで話そうin壽丸屋敷」が開かれました。



約20名の参加者は、ジュースやお菓子をいただきながら、ワールドカップサッカーや海外旅行経験談など、気やかな雰囲気の中で英会話を楽しみました。

今回は9月上旬の予定です。初めての方でも楽しめますので、皆さんも参加してみたいかがですか。

六月号のせせらぎトークに、さとう宗幸さんが美味いと紹介したそば屋が、ちつとも美味くなかったと書いた。それを見た元仙台中央郵便局長の竹内廣さんが、けしかけたらしい。

宗幸さんからハガキが来た。

「ヨの辞典に不可能はない。フを探せ。このジョーク大好きです。料理番組にまずはいいはない。それを承知で店探せ、ということ。」追って書きに「竹内さんからせせらぎトークのコピーが送られて参りました。さとう宗幸」とある。

ははん、これは相当頭にくきたなと思ったので、「宗幸さん、字が上手なので、びつくりしました。」と書いてやった。だって本当に



## 川井市長の せせらぎトーク

### ■ そば談議 ■

上手なんだもの。そして竹内さんには、

「きました、きました、宗幸さんからのハガキが。ただ料理番組にまずはいいかもしれないが、料理屋さんに美味しい、美味しいはあるんですよ。」

折り返し「寒河江駅前ではつたりの二人」という但し書きで、「また誠六市長さん（寒河江市長佐藤誠六氏）のところで、美味しいそば屋を見つけました。竹内」

「ここは美味しいです。宗幸」とある。返事は、

「寒河江で美味しいそば屋と言えば、慈恩寺そば

か、弘庵でしょうか、それなら宗幸さんの折り紙付きも分かるのですが。」どうです、

われながら、博識でしょうが。

少し日にちが経って、七月の三日、東京から帰ってきて、テレビのスイッチをひねったところ、『OH！バンドス』で温麺が取り上げられていた。

宗幸さんに一筆、「番組で温麺を取り上げていただいて、有り難うございます。」

返事が来た。「白石の番組への出演数はトップクラスで協力いただいております。いつか一緒にそば店歩きを さとう宗幸」

これでハガキのそば戦争は終結。今、白石では転作で、十ヘクタール以上のそばが植えられている。中町ポケットパークと材木岩に復元される検断屋敷で、地元を、地元の人達の手づくりで食べたいという構想があることは、市民の皆さんもご存じだろう。問題は中味である。

つい先日、東北大学医学部長の吉本先生が、刈田病院においてになり、つぶさに視察をいただいた。視察が終わったとの連絡で、ご挨拶に行ったところ、

「素晴らしい病院をつくられましたね。川井市長のことだから、そんじょそこらにある病院とは違う病院をつくるんだらうと思

っていたけれども、感心しました。」とお褒めいただいた。水沢の胆沢病院の副院長大和田先生も、同じご意見だったが、その後で吉本先生はこう言われた。

「岡崎院長、これだけの病院を君の手に預けてもらったのだから、中味だな、問題は、この建物に恥じない、しっかりしたソフトを展開するのが君の責任だ。」と。

吉本先生の言葉はまさに我が意を得たりという感じであったが、実はそばも同じだろう。

食べる場所としてポケットパークとか検断屋敷とか工夫を凝らしても、肝心のそばがまずければ、見向きもされないのは当然である。

白石の農業の振興は、地産地消にある。その先兵としてのそばの役割に大いに期待をするが、市民の皆さんも、宗幸さんをウナらせるような腕を磨いていただきたいものである。